



柚ゆずの末

柚木と浦町の境あたりに、柚木神社があります。古文書によると、この神社は治安二年（一〇二二年）に建てられ、柚木という地名の由来となった神社だと書かれています。今回は、長年この神社の氏子総代を務めていた磯野龍彦さんから、お話を伺いました。



約千年もの昔、今の柚木周辺が、まだ富士川の河原だったころのことです。ある年、大水が出て甲州（山梨県）の方からユズの木が流れてきました。ユズの木は、そのままそこに根付き、だんだん大きくなりました。やがてその木の太さは、大人三人で幹の周りを囲んでやっと手が届くほどに、高さは五丈八尺（約十七メートル）もの大木になりました。そして、そのユズの大木を中心に何本ものユズの木が生えて、林になりました。生命力の強いユズの木を見て、村人たちは、「この不思議なユズの木には、きっと神様が宿っているに違いない」と、柚木神社を建ててあがめていました。

そのころ、全国で大地震が起きて、多くの人が死んだり、ひでりが続いて作物ができず、飢え死にする人が出たりしました。そこでユズの木の下に住んでいた百姓秀安という人が、ユズの葉を全国へ配ったところ、たちまち地震はおさまり、雨も降って作物がよくできるようになりました。

お上では、柚木神社に感謝し、祭りの費用だとして、毎年、秀安に黄金五十枚をくださったということです。

神社の祭りは、今も毎年九月に行っています。しかし、残念ながら今では、柚木神社の周辺に大きなユズの木はありません。八年前に神社の境内にユズの木を植えたんですが、なかなか大きくならなくて…。今もなお、家の敷地内の鬼門にユズの木を植えるところがあります。ユズの木にはとげがあるし、香りのある実もなるので、きつと魔よけの霊力があると信じられているんでしょうね。



磯野龍彦さん（柚木）

こちら編集室

初めての人事異動でこちらの広報広聴課に配属されました。ちなみに今まで4年間一生懸命に頑張ってきた仕事は、下は3歳の幼稚園児から上は70歳近くのおじさま方をお相手に、年4回の安全運動を通して地道な活動を推進するというものでありました。今では、

「〇〇クラブのお友だち、こんにちは！」なんて言う声がとてもいい思い出となっています。今までと全く違ったジャンルの仕事となりました。早く一人前の広報マンとなるよう頑張ろうと思っています。何とぞよろしくお願ひします。（交通安全のお兄さん）

人口	232,632人
男	116,006人
女	116,626人
世帯	73,003世帯
（4月1日現在）	
発行・編集	富士市総務部広報広聴課
富士市永田町1-100	☎51-0123

